

令和三年（二〇二一）三月二十六日発行
『大倉山論集』第六十七輯抜刷
（公益財団法人 大倉精神文化研究所）

寄贈資料「大倉孫兵衛旧蔵資料」からみる大倉書店の歩み

星原大輔

寄贈資料「大倉孫兵衛旧蔵資料」からみる大倉書店の歩み

星原大輔

目次

はじめに

一 日除け暖簾

二 画帖『大日本史略図会』

三 内国勸業博覧会賞牌

おわりに

はじめに

公益財団法人大倉精神文化研究所の創立者大倉邦彦（以下、邦彦と略記す）は、大倉洋紙店の三代目社長であった。創業者は義祖父の大倉孫兵衛（以下、孫兵衛と略記す）で、二代目社長は義父の文二である。彼らが形成した大倉洋紙店の社風や経営理念は邦彦の思想に多大なる影響を及ぼしたと考えられる。そこで当研究所では、「精神文化の研究及びその成果の普及」（定款第四条第一項第一号）の一つである「創立者及び研究所関連資料の研究・調査」として、孫兵衛と文二に係る資料の蒐集及び調査にも取り組んできている。そうしたところ、令和二年六月と一二月の二回に互って、孫兵衛の曾孫にあたる大倉淳氏（株式会社大倉陶園顧問）より、大倉書店（萬屋・錦栄堂）に係る資料の寄贈を受けた。内容は、左の通りである。

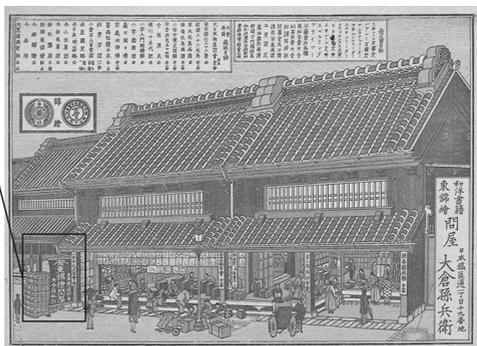
- 一 日除け暖簾 三点
- 二 画帖『大日本史略図会』 一点
- 三 内国勸業博覧会賞牌 二点

いずれも孫兵衛が経営していた時代の大倉書店（萬屋・錦栄堂）の歴史を知ることができる貴重な資料である。そこで本稿では、これらの寄贈資料の概要を紹介すると共に、これらにまつわる情報から大倉書店の歩みを考察していく。

一 日除け暖簾



日本橋通一丁目
東錦繪問屋
大倉孫兵衛



【図1】明治21年（1888）頃の店舗全景

《沿革史資料No.12645-30》

店舗正面の右先に日本橋があった

今回寄贈された暖簾三点はいずれも、複数枚の布が縫い合わせた一枚布形状の「日除け暖簾（太鼓暖簾）」である。

孫兵衛が創業した萬屋が店舗を構えた日本橋通りでは、江戸時代初期から多くの人びとが往来しており、「屋号紋」「商標」「屋号名」などを染め抜いた日除け暖簾が、看板の一種として店舗に掲げられていた。萬屋でも、日本橋を渡って来た人びとの目にすぐに入るよう、店頭に掲げられていたことが、【図1】の引札からうかがえる。今回寄贈された暖簾もその傷み具合などから、実際に店頭で使用されたと思われる。

萬屋は明治二〇年代はじめに錦栄堂と統合し大倉書店となった。この頃になると、店舗や街並みの洋風化に伴い、日本橋通り周辺でも日除け暖簾を使用する商店は少なくなり、明治三〇年代初めに撮影された大倉書店の店頭写真^②には、日除け暖簾が下げられていない。そして店舗は明治四一年（一九〇八）秋に四階建ての煉瓦ビルへ建て替えられる。日除け暖簾は大倉孫兵衛の自宅に移されたのであろう。そのため大倉書店に幾度か生じた祝融の災いを免れ、現存するに至ったと推定される。

以下、三枚の日除け暖簾の概要及び特徴を紹介する。

(一) 日除け暖簾(部分、「雙紙問屋 萬屋孫兵衛」) 【図2-1】沿革史資料No.13423



【図2-1】現状



【図2-2】

右側の明るい箇所は筆者による予想図

今回寄贈された暖簾はいずれも藍染の布で作成されている。堅実を旨とする商家では、藍色や紺色の暖簾が一般的に使用されたという。

本暖簾の左から三つ目までの布は原形をとどめているが、四つ目の布の上部は缺のようなもので裁断されている。右側が裁断されている状態での寸法は、幅は一二〇cm、長さは一七九cm(乳を含めると一八四cm)である。

通常、暖簾の横巾は三布(三つの布を縫い合わせた)が多いが、建物との兼合いで大きい暖簾が必要な場合は、縁起をかついで奇数の布の枚数を選ばれるという^③。したがって、本暖簾はもともとは五布で、【図2-2】のような形状及び図柄で、幅は一七〇cm前後であったと思われる。

さて本暖簾には「商標…□(地本)□雙紙問屋」「屋号名…萬屋孫兵衛」が染め抜きされている。まず「大倉」姓ではなく、「萬屋」の屋号で記されていること、つぎに(二)(三)の暖簾とは異なり、鍵万と称される屋号紋がないことが注目される。管

見の限りでは、鍵方は明治三年（一八七〇）以降に出版された錦絵から使用されているため、本暖簾の作成及び使用時期は明治初年と推定される。

(二) 日除け暖簾（「地本雙紙問屋 日本橋區通一丁目 大倉孫兵衛」）【図3】沿革史資料No.1324



【図3】

本暖簾の寸法は、幅は一四〇・七cm、長さは一八九cm（乳を含めると一九九cm）である。現状では、右下端の乳（輪）が欠けている。

藍染の三布に「屋号紋…」「商標…地本雙紙問屋」「屋号名…大倉孫兵衛」、そして「住所…日本橋區通一丁目」が染め抜きされている。日本橋區は郡区町村編制法施行により明治十一年（一八七八）一月二日に誕生した⁽⁴⁾。そして「地本雙紙」は明治一五年頃から次第に衰退したとされていることから、本暖簾の作成及び使用時期は明治一〇年代前半と推定できる。

(三) 日除け暖簾（「地本雙紙問屋 日本橋區通一丁目大倉孫兵衛」）【図4-1】沿革史資料No.1325

(二) の暖簾と同じ「屋号紋」「商標」「住所」「屋号名」が染め抜きされており、こちらも明治一〇年代前半に使用

されていたと推定される。

本暖簾の幅は一〇九cm、長さは一八二cm。

ところで本暖簾には、通常あるべき上下端にある乳の縫い付けが見られない。そのかわり、表面に藍染めの紐が二本縫い付けられている(図4-1-2)。

本暖簾をどのようにして使用したのか、今後の調査課題の一つである。

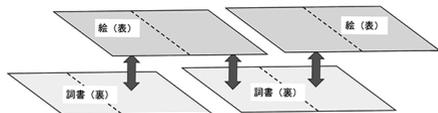


【図4-1】

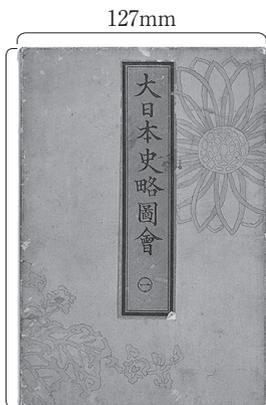


【図4-2】

紐の位置は上から583mm、左から295mm。紐の太さは27mm



【図5-2】



【図5-1】

二 画帖「大日本史略図会」

『大日本史略図会』は、神武天皇の東征から明治一五年の済物浦条約締結まで、百の歴史の場面を絵と詞書で描いたシリーズ物である。絵は安達吟光、彫はムメザハ（和田勇次郎カ）、詞書は南柯亭夢覚（高橋柯亭）が担当し、明治一八年（一八八五）一二月から販売された。なお、これまで全一〇〇図を所蔵する研究機関、資料館は確認できなかったが、神奈川県立歴史博物館寄託資料「大倉孫兵衛旧蔵錦絵画帖」を紹介した図録『明治錦絵×大正新版画』⁵⁾によって、全体像をはじめて把握することが可能となった。

今回寄贈された画帖『大日本史略図会』（【図5-1】）は、歴史的場面を描いた絵と詞書をそれぞれ刷って、【図5-2】のように、裏面を半丁ずつずらして貼り合わせている。先述した「大倉孫兵衛旧蔵錦絵画帖」にある『大日本史略図会』は、絵の真裏に該当する詞書が貼り込まれており、形状が明らかに異なっている。⁶⁾

なお同じタイトルの画帖が大黒屋から刊行されている。国立国会図書館デジタルコレクションで確認できるものは、五〇図の「宇治川先陣争い」までしかなく、詞書はない。このほか、①跡見学園女子大学新座図書館が一、三巻、②同志社大学図書館が一、四巻、③梅花女子大学図書館が一、三巻を所蔵しているが、現在、新型コロナウイルス感染症による利用制限のため閲覧ができず、寄贈された画帖との比較考証は今後の課題である。

さて『大日本史略図絵』はどのようにして販売されていたのであろうか。その謎を解く鍵は、『大日本史略図会』の広告文にある。ここでは長文ではあるが、『読売新聞』明治一九年五月二二日の紙上に掲載された広告文を掲出する。

岩本語^⑤先生編輯○安達吟光画

大日本史略図会 全計百図

大錦絵上楷一枚二図 附録伝記一枚添 定価金三銭^①

但し満尾迄御購求の諸君へは無代にて美麗なる画帖五巻に仕立差上升^②。府外逋送賃十枚金六銭

世に錦絵の種類其品甚だ多しと雖も、未だ一として教育の階梯に適するはなし。是に於て今般拙舗画工編者の二者と謀り、僅か教育上に就て有益なる者を撰び、一種無比の錦絵を出版す。是れ乃ち普通に流布たる類書と異なり、我遠つ皇祖神武天皇以降近世朝鮮の変に至るまで悉とく集め之を一百図と為し、歴代沿革時世風俗人情の態に反かず悉とく之を探索し以て美麗細密に図画し、加ふるに諸画を参酌し之れに伝記を附し総て歴史の体に準じ、簡短にして解易きを旨とす。故に傍訓を附し一々是れに年数を以て其順序を逐ひ、仮令へば和氣の清麿に於ける明治十八年より過ぎ去ること一千百何十年に当る、或ひは宇治川先陣に於ける七百何年に当ると、皆な悉とく一目瞭然にして其の事蹟を詳らかに記るし、狂盲綺語を毫も混ちへず。真に経世の事実を知らしめんことを専らとす。故へに幼にして未まだ小学に就かざるの児童と雖も、一度之れを繙とかば自然我が日本歴代の概略を導びく

の階梯たること正に疑ひなし。因て名号て日本史略図会と題す。以て他の錦絵の如き贅物に非ざるを鑒定し、陸続購求有んことを冀望す。

日本橋通一丁目十九番地
出版人○錦榮堂○萬屋

大倉孫兵衛

まず右の下線①より、通常は二図が刷られた大錦絵一枚で販売されていたことがわかる。令和二年二月現在、『大日本史略図会』の一部所蔵を、デジタルアーカイブで確認できた国内外の研究機関、資料館は、左の通りである。⁷⁾
①早稲田大学演劇博物館⁸⁾ = 01.02 / 03.04 / 05.06 / 07.08 / 11.12 / 19.20 / 23.24 / 27.28 / 31.32 / 39.40 / 53.54 / 57.58 / 69.70 / 79.80 / 91.92 / 95.96

②ウォルターズ美術館 (アメリカ) = 02 / 11 / 13 / 30 / 39

③アメリカ議会図書館 (アメリカ) = 31.32 / 51.52 / 53.54

おそらく店頭で通常販売されていたのは、①と③の収蔵資料に見られるように、絵と詞書が表裏に刷られていた二図入縦二丁掛であったと推定される (【図6】)。

一方で下線②より、全一〇〇図の購入者には無償で画帖を仕立てて配布されたこと、そして画帖は全五冊であったことが確認できる。つまり画帖は全一〇〇図を購入した顧客向けに特別にあつらえた稀少品であったのである。寄贈された画帖の表紙には①とあり、一図「神武天皇」から二〇図「菅原道真」までが収められていることから、これは全五冊の第一冊目に当たるのである。



【図6】

「Nasu no yoichi naozane to atsumori」
(The Library of Congress 所蔵 / 2002700028)

三 内国勸業博覧会賞牌

今回寄贈された賞牌は二点あり、一つは明治一四年（一八八一）に開催された第二回内国勸業博覧会で、もう一つは明治二八年（一八九五）に開催された第四回内国勸業博覧会で、孫兵衛が有功賞牌三等を受賞した際に授与されたものである。

内国勸業博覧会は、【表1】の通り、明治時代、政府が主催して五回開催された。「万物を遺類なく一場間に蒐集し、素性は質の良否を調し、人工は巧拙を査し、識者之を評論」する機会を設けることで、「改むべきはこれを改め、教ふべきはこれを教へ」て技術改良を促し、そして海外への「販売交易の途を開く」ことを意図して始められており、当時推し進められていた殖産興業政策の一環であった。孫兵衛は明治九年（一八七六）に「輸出貿易による外貨獲得」を目的として創業した森村組に参画しており、右のような趣旨で始まった内国勸業博覧会への出品を行ったのは当然の流れであろう。

孫兵衛の内国勸業博覧会への出品物については、関根仁「大倉孫兵衛と博覧会―万国博覧会・内国勸業博覧会への品―」¹³⁾ですでに紹介されているが、本章ではそれらの書誌情報について考察し、その上で賞牌の概要を紹介する。

【表1】内国勸業博覧会

	会期	会場	来場人員	出品人員	出品点数	褒賞						
						総数	名誉	龍紋賞牌	鳳紋賞牌	花紋賞牌	褒状	
第1回	明治10年（1877） 8月21日～11月30日	東京 上野公園	454,168	16,174	84,352	総数	名誉	龍紋賞牌	鳳紋賞牌	花紋賞牌	褒状	
						3,967(人)	6	104	488	984	2,385	
第2回	明治14年（1881） 3月1日～6月30日	東京 上野公園	822,395	31,239	331,169	総数	名誉	進歩	妙技	有功	協賛	褒状
						4,031(人)	4	81	72	1,014	13	2,847
第3回	明治23年（1890） 4月1日～7月31日	東京 上野公園	1,023,693	77,432	167,066	総数	名誉	進歩	妙技	有功	協賛	褒状
						16,115(人)	7	177	210	3,962	15	11,744
第4回	明治28年（1895） 4月1日～7月31日	京都 國崎公園	1,136,695	73,781	169,098	総数	名誉	進歩	妙技	有功	協賛	褒状
						17,729(点)	22	205	161	4,740	47	12,554
第5回	明治36年（1903） 3月1日～7月31日	大阪 天王寺今宮	5,305,209	130,416	276,719	総数	名誉	一等賞牌	二等賞牌	三等賞牌	協賛賞状	褒状
						36,487(点)	129	505	2,360	7,566	69	25,858

来場人員数等の典拠は、注11を参照。

(一) 第一回内国勸業博覧会

第一回内国勸業博覧会は明治一〇年(一八七七)八月二日から十一月三〇日まで、東京・上野公園内の寛永寺本坊跡周辺に建設されたレンガ造りの建物などを会場として開催された。本邦初の開催を受けて、孫兵衛は博覧会会場の様子を描いた錦絵「上野公園地博覧会御開業図」¹⁴を、進齋年光を画工として明治一〇年八月に販売している。これは大判を横に六枚並べた大作で、会場全体の様子がかがえる。

『出品目録』によると、孫兵衛は「第二区 製造物」の「第五類 造家並に居家需用の什器」の部門に、左の「錦絵」四点を出品している。¹⁵

① 仙過紙「紫式部」(画工…落合幾三郎、版刻…深川森下町木下藤吉)

② 「東京名所図」(画工…安藤徳兵衛、版刻…池端仲町銀次郎)

③ 「日本物産図」(編輯…大倉孫兵衛、画工…安藤徳兵衛、版刻…木下藤吉)

④ 「日本名将像」(画工…月岡米次郎、版刻…銀次郎)

③の「日本物産図」は、編輯と画工が一致することから、明治一〇年八月一〇日に出版届を出した「大日本物産図会」であろう。現存するものには彫師の氏名は記載されていないが、右により深川森下町の木下藤吉が担当したことが判明した。

一方、林宏美「大倉孫兵衛出版錦絵目録」¹⁶には①②④の作品名及び画工等が一致するものではなく、その後の調査でも見出せない。図録が存在しないため出品物の構図を知る術はなく、現段階では特定は不可能である。

さて明治一〇年九月二日に公布された「審査条例」第四条では

物品及び事故を褒賞し賞牌を与ふるは左の目に照準し其優劣に因て三等に分つ

第一 維新以後農工の諸職業に就て新工夫を為し或は新品新方等を用ひ或は模造移植に因て進歩を為し或は有用の物産を發見せし者

第二 材料を適用し或は製作を精良にし或は産出を増多し或は便益を加へ或は新たに売買の道を開き或は改良の器械を用ひ或は物品の廉直を致せしに依り衆に秀でたる者

第三 美術に於て卓越の者

第四 模様及び色彩の衆に秀でし工物を出たせし者

第五 有用の図書雛形を製作せし者

第六 制作場の支配人工長製図又は雛形其他助力人となりて物品の品位を進め価値を廉にし及び其売買を広めしに最も力あるの故により出品人より申出されたるもの

以上の諸項に就て右三等の賞牌を与ふるに足らざるものには別に褒詞状を与ふべし¹⁷と定められている。すなわち優良と認められた出品に対しては、優龍紋、鳳紋、花紋の三種の賞牌、あるいは褒詞状が授与されたのである。

孫兵衛が出品した「錦絵」は「物産の画帖兒童の知識を広むるの益あるを觀る」と評価され、褒詞状が授与されたのであった。¹⁸大倉淳氏によると、この時の褒詞状は確認できないという。¹⁹



【図7】「上野公園内国勸業第二博覧会美術館并猩々噴水器之図」

画工：三代目歌川広重 国立国会図書館所蔵（寄別7-1-2-3）

（二）第二回内国勸業博覧会

第二回内国勸業博覧会は明治一四年（一八八一）三月一日から六月三〇日まで開催された。会場は第一回と同じく上野公園の寛永寺本坊跡周辺で、イギリス人建築家ジョサイア・コンドルの設計によるレンガ造り二階建ての建物が建設された。孫兵衛はこの時も、会場の様子を描いた錦絵「上野公園内国勸業第二博覧会美術館并猩々噴水器之図」を明治十四年四月に販売している（図7）。

孫兵衛は「第二区 製造物」の「第十一類 衣服及び裝飾」の部門で、錦絵やカルタ、団扇など二一点を出品した²⁰。概要は左の通りである。

- ① 錦絵・絹「花鳥」彩色（画工…京橋区木挽町九丁目芝斑齋^兼、彫工…本郷区湯島三組町岡信吉、摺工…下谷区車坂町山田房之助）

② 錦絵・政紙「花鳥」彩色（同右）

③ 錦絵・政紙「徳川十五代記」極彩色摺（画工…根津宮永町月岡芳年外二名、彫工…本所区横綱町問瀬徳次郎、摺工…南葛飾郡小梅村五井松五郎、仕立…南傳馬町大村恒七）

④ 錦絵・政紙「大日本物産図会」極彩色画帖（画工…京橋区

- ⑤ 南紺屋町安藤広重、彫工…深川区東森下町柴岡長次郎、摺工…神田区旭町大川政吉、仕立…南傳馬町大村恒七
錦絵・政紙「花鳥」極彩色縮製画帖（画工…通一丁目大倉曉山、彫工…本郷区湯島三組町宗岡信吉、摺工…下谷区車坂町山田義之助、縮工…元柳町石坂久蔵）
- ⑥ 錦絵・政紙「花鳥」極彩色掛軸製（画工…大倉曉山、彫工…宗岡長次郎、摺工…南葛飾郡小梅村五井松五郎、仕立…南傳馬町大村垣七）
- ⑦ 錦絵・政紙「婦人」極彩色掛軸製（同右）
- ⑧ 錦絵・政紙「花鳥」極彩色掛軸製（同右）
- ⑨ 錦絵・政紙「婦人」彩色掛軸製（同右）
- ⑩ 歌留多・政紙「日本地志略」錦絵（画工…浅草区新福井町山田国玉外九名）
- ⑪ 歌留多・政紙「英語」錦絵（画工…南葛飾区小梅村小林永濯外九名）
- ⑫ 歌留多・政紙「皇国史略」錦画（画工…日本橋区蛸壳町二丁目竹内国政外九名）
- ⑬ 歌留多・政紙「近世英雄」（同右）
- ⑭ 团扇・政紙「花鳥」彩色画柄竹（画工…京橋区南紺屋町安藤広重、画工…京橋区木挽町一丁目芝琳齋外一名）
- ⑮ 团扇（同右）
- ⑯ 团扇・政紙「東京名所」彩色画柄竹（同右）
- ⑰ 团扇・政紙「婦人」彩色画柄竹（同右）
- ⑱ 团扇・政紙「文人」墨画柄竹（同右）
- ⑲ 团扇・政紙「花鳥」彩色画柄竹（同右）

⑳ 団扇（同右）

㉑ 錦絵印刷須序見本・政紙、衝立仕立、第一板より四十着の色を経て一つの錦画となる順序、原版顔料附属、

（彫工：深川区東森下町片田長次郎、印刷工：神田区旭町大川政吉）

右のうち③は明治八年に販売された「徳川十五代記略」^㉑で、④の「大日本物産図会」は第一回にも出品していたが、彫師の氏名が変わり、形態が「画帖」となっていることが注目される。

そして⑤は、明治十一年一月に印刷発売された「草木華鳥図会」と推定される。『出品目録』では画工の氏名が「大倉曉山」と明記されているが、ボストン美術館のデータベース^㉒または慶應義塾大学メディアセンターデジタルコレクション^㉓にて公開されている画像では、曉山の署名及び落款があるのみである。正しくは広田曉山で、明治一八年に大倉書店から刊行された『古代唐草模様集』の編輯人の広田伊兵衛である。

また、⑥から⑨までの「極彩色掛軸製」は、前掲の図録『明治錦絵×大正新版画』に掲載されている「輸出用の掛軸」^㉔に近似したものであったと推測される。

さて第二回内国勸業博覧会審査条例では、優良出品への褒賞が名誉賞牌、進歩賞牌（二等～三等）、妙技賞牌（一等～三等）、有功賞牌（一等～三等）、協賛賞牌（一等～三等）、褒状の六種に変更された。^㉕孫兵衛の出品物「錦絵歌留多団扇」は「紙料色彩共に佳良なり。且価格当を得て販頒亦多し。以て平素の勉業を徴するに足る。其有功褒賞すべし。」と評価され、有功賞牌三等を授与された。^㉖

審査条例第一〇条で、有功賞牌は次のように定められている。

物産を増殖し、販路を弘め、沽価を低くし、或は便益の機械器具を適用し、其他模造移植等に因て功勞あるもの。若くは従来の方法に由て製出するも他の出品に比して特に優等なるもの、及び製品の雅致ありて他の意匠を資く



【図8】

第二回内国勲業博覧会 有功賞牌

(沿革史資料No.13421)

上から、漆塗りのケース、賞牌の表面、裏面

るに足るものに与ふ。

このとき授与された賞牌が、今回寄贈されたものの一つである(【図8】)。「賞牌」と金字で記されたケースに保管されており、賞牌は銅製の円形状で、大きさは直径六・七cm、厚さ五mmである。表面には菊花紋章の周りに藤が施されて「有功」とある。裏面の外枠には「内国勲業博覧会」「東京」「明治十四年」という文字が、そして中央に刀を帯びた一人の男性が刻されている。これは武内大臣、すなわち武内宿禰である(【図9】)。

博覧会事務局が提出した上申書には、

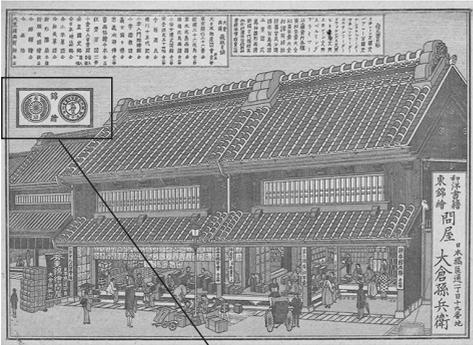
武内大臣、景行天皇けいこうてんのうの時に東夷を觀察し帰奏の後日本武尊やまとたけるのみこと東征の功あり。後、成務天皇を輔相し神功皇后の参謀となりて三韓を服し、晩年筑紫を鎮じたるは大宰府外国交通の根元とす。即て有功賞牌に適當すべし。

と、海外進出の観点から選定された理由が記されている。



【図9】

「賞牌製造ノ件」(国立国公文書館蔵「公文録・明治十四年・第二百三十三巻・内国勸業博覧会事務局」)にある図案。



【図10】引札に印刷された有功賞牌

《沿革史資料No.12645-30》

出品者にとって内国勸業博覧会での賞牌授与は、政府から自社製品の優位性を認定されたことを意味する。したがって受賞を宣伝することは商品価値を高め、販売促進に繋がる。そこで賞牌に関して、明治十一年四月二日に内務省布達甲第九号が出されている。

明治十年内国勸業博覧会に於て授与の賞牌は受領人の適宜に任せ、右賞牌の写を製造の物品又は其外と包み、或看板広告書等の類へ相付け候儀は不苦候条、此旨為心得布達候事。

孫兵衛も賞牌の写しを販売促進に利用していたことが、前掲した引札などによって知られる(【図10】)。

(三) 第四回内国勸業博覧会

第四回内国勸業博覧会は平安遷都一一〇〇年記念祭の一環として、京都市上京区岡崎町（現京都市左京区岡崎）で明治二八年（一八九五）四月一日から七月三十一日まで開催された。

孫兵衛は明治二三年（一八九〇）の第三回には出品しておらず、この四回では「第一部工業 第三類 写真及印刷」の「其二 印刷物及其用具」の部門に、二八点を出品している。

以下、『第四回内国勸業博覧会出品部類目録』²⁹⁾にある出品物一覧を刊行年順で掲示するが、目録に記載されている出品名の明らかな誤字は改め、抜字と思われる箇所は「」で補った。また各書籍の冊数と奥付に記載されている版權免許または刊行年月日（元号表記は省略した）、著者、出版・発行人を「」で補足した。

- ① 「榎嶺」百鳥画譜正編（三冊、①③一四年一〇月一八日版權免許、著者・幸野榎嶺、出版人・大倉孫兵衛）
- ② 工業図式（五冊、①⑤一六年五月二日版權免許・出版、筆者・幸野榎嶺、出版者・大倉孫兵衛）
- ③ 「鮮齋」永濯画譜（一冊、一七年三月四日出版免許・成鐫出版、編画者・鮮齋永濯、彫工・大塚鐵五郎、出版者・大倉孫兵衛）



【図11】大倉孫兵衛の出品物が陳列された工業館内
桑田正三郎編『第四回内国勸業博覧会写真』（明治28年）
（国立国会図書館所蔵）

- ④ 新撰古代模様鑑〔二冊、①②一七年七月二六日版權免許、編輯者…児玉永成、出版人…大倉孫兵衛〕
- ⑤ 「模嶺」百鳥画譜続編〔三冊、①③一七年一〇月二〇日版權免許・同年一月出版、著者…幸野模嶺、出版人…大倉孫兵衛〕
- ⑥ 古代唐草模様集〔二冊、一八年八月二八日版權免許・同年一〇月出版、編輯人…広田伊兵衛、出版人…大倉孫兵衛〕
- ⑦ 晧齋画談〔四冊、①④二〇年六月二八日出版版權願・同年七月六日版權許可、編輯者…瓜生政和、画工人…河鍋洞郁、出版人…岩本俊〕
- ⑧ 「附音」和訳英字彙〔二冊、二二年一月一日、纂訳者…島田豊、発行者…大倉孫兵衛、印刷者…汽關社〕
- ⑨ 「插图」和訳独逸字彙〔二冊、二二年一月一日、纂訳者…福島鳳一郎、発行者…大倉孫兵衛、印刷者…星野周作〕
- ⑩ 光琳画式³⁰〔二冊、二三年五月求板、画…法橋光琳、集…合川珉和、書林…大倉孫兵衛〕
- ⑪ 北斎今様雛形〔二冊、二二年一〇月一八日、著画…葛飾北斎、印刷兼発行者…大倉孫兵衛〕
- ⑫ 日本模様鑑〔一冊、二三年四月八日、著作者…山下亀三郎、発行兼印刷者…大倉孫兵衛〕
- ⑬ 省亭花鳥画譜〔三冊、①二三年四月一日／②同年九月二七日／③二四年三月四日、著作者…渡辺省亭、発行者兼印刷者…大倉孫兵衛〕
- ⑭ 万職図考〔五冊、①⑤二三年一二月五日、印刷兼発行者…大倉孫兵衛〕
- ⑮ 北斎花鳥画伝〔二冊、①②二四年三月二六日、著画者…前北斎為一、印刷兼発行者…大倉孫兵衛〕
- ⑯ 菊池容齋画譜〔二冊、二四年一〇月二二日、縮画兼編輯…松本楓湖、発行兼印刷者…大倉孫兵衛〕

- ⑰ 梅嶺菊百種³¹⁾〔二冊、①二四年二月五日／②二五年一月一九日、著作者…幸野楳嶺、発行兼印刷者…大倉孫兵衛〕
- ⑱ 日本歴史画報〔一三冊、①②二五年二月二七日／③同年四月一六日／④同年五月三〇日／⑤同年六月二九日／⑥同年八月五日／⑦同年九月二九日／⑧同年十一月八日／⑨同年十二月二八日／⑩二六年二月一日／⑪同年四月二九日／⑫同年六月一七日／⑬同年八月八日、編輯者…松本楓湖／津江秋芳、発行兼印刷者…大倉保五郎〕
- ⑲ 美術「応用」解剖学〔一冊、二五年四月一日、撰者…田口茂一郎、図画刮刻兼印刷者…中川長二郎、印刷者…長尾景弼〕
- ⑳ 絵画帖〔二冊、①二五年六月二八日／②同年十二月二八日、編輯者…荒木寛畝、発行兼印刷者…大倉保五郎〕
- ㉑ 「小学」日本画帖〔一六冊、①～⑬二五年七月五日、著述者…野村文舉、発行兼印刷者…岩崎清吉、発行所…大倉書店〕
- ㉒ 虫類画譜〔二冊、二五年一月二日、発行兼印刷者…大倉孫兵衛〕
- ㉓ 「閣竜世界博覧会」美術「品」画譜〔四冊、①二六年一〇月一日／②同年十一月二三日／③二七年一月三〇日／④同年七月二〇日、著画者…久保田米僊、発行兼印刷者…大倉保五郎〕
- ㉔ 寛畝絵手本³²⁾〔二冊、二七年一月一八日、編輯者…荒井寛畝、発行兼印刷者…荒木盛〕
- ㉕ 月樵画譜³³⁾〔二冊、①②二七年六月三〇日、著画…醉花亭月樵、発行兼印刷者…大倉保五郎〕
- ㉖ 「図案」服紗合〔二冊、①②二七年八月三一日、編輯者…久保田米僊／永井素岳、発行兼印刷者…大倉保五郎〕

郎)

②7 省亭花鳥統編

第四回の出品は、木版印刷による画譜が中心である。孫兵衛は明治一〇年代半ばから模様や花鳥風月などを載せた美術性の高い画譜を次々と刊行している。これは森村組の一員として貿易業に携わる中で、輸出品である「陶器蒔絵金銀銅細工木竹牙彫刻織物等」の模様や絵付けのテクニストの必要性を認めたためであった。それだけに印刷技術の向上を図り、高品質に拘った画譜の作成に傾注した。しかし明治二六年のシカゴ・コロンプス万国博覧会を視察した孫兵衛は、デザインの潮流が変化しつつあることを実感し、それまで手掛けていた森村組のデザインを「洋風画」へと変えていったという³⁴⁾。したがって、孫兵衛にとってこの博覧会への出品は、ある意味、それまで取り組んできた出版事業の集大成であったといえよう。

ところで⑦⑱⑲⑳の書籍は、印刷発行に大倉孫兵衛または保五郎の名が記されていない。にもかかわらず出品物に含めていることから、大倉書店がこれらの出版にも深く関わっていたのであろう³⁵⁾。なお㉑は該当する書籍を特定できず、今後の課題である。

さて第四回では、優良出品への褒賞は、名誉賞牌（金）、同（銀）、進歩賞牌（一等〜三等）、妙技賞牌（一等〜三等）、有功賞牌（一等〜三等）、協賛賞牌（一等〜三等）、褒状の七種となっている。孫兵衛の出品物「木版印刷画譜各種」は「印刷精巧にして木版の彫刻亦佳良なるを見る。」と評価され、有功三等賞を授与された³⁶⁾。

第四回の内国勸業博覧会規則第三七条によると、有功賞牌の基準は

物産を増し、販路を弘め、価値を低くし、便益の機械、器具を適用し、又は模造移植せし等に因て功勞ある出品をなしたる者に与ふ³⁷⁾。

と定められている。

今回寄贈されたもう一つの賞牌が、この時に授与されたものである（**図12**）。第二回のものとは形状はやや異なる「有功賞牌」と刻された漆塗りのケースに保管されており、賞牌は銅製の円形状で、大きさは直径六・七cm、厚さは六mmである。

表面には菊の御紋の周りに「有功」「神武天皇即位紀元」「式千五百五十五年」という篆字が刻まれている。そして裏面の外枠には「内国勸業博覧会」「京都」「明治廿八年」という文字が、そして中央に刀を帯びた武内宿禰が刻まれている。

なお第二回と第四回では、授与された賞牌と「同一の模様并に菊御紋を印記した」賞証も併せて授与されたが、こちらも確認できないという。



【図12】

第四回内国勸業博覧会（京都）有功賞牌

（沿革史資料No.13422）

上から漆塗りのケース、賞牌の表面、裏面。

おわりに

今回大倉淳氏からの寄贈を受けて、暖簾や賞牌を用いた宣伝戦略や未見の刊行物の存在など、大倉書店について新たな側面が明らかとなった。孫兵衛にとつて寄贈された貴重な資料類は、自らの人生を語る上で不可欠なもので、終生手許に置いて大切にしていたのであろう。長男の和親をはじめ大倉家の人びとはそうした孫兵衛の想いを汲んで受け継いで来られ、そして寄贈されるに至ったのである。

改めて寄贈していただいた大倉淳氏へ厚く御礼を申し上げると共に、当研究所でも寄贈資料を末永く大切に保管し、研究や展示などに活用していきたいと考えている。

注

- (1) 小貫浩「江戸の「暖簾」と「看板」——「日本橋通り」を中心として——」（『早稲田大学大学院教育学研究科紀要…別冊』二四、早稲田大学大学院教育学研究科、平成二八年）。
- (2) 出版協会編輯局編『廿世紀之東京』（出版協会、明治三九年）収録の大倉洋紙店と大倉書店の全景写真による。拙稿「世の為に田を耕す」大倉家三代の生き方——第三十八回研究所資料展の報告を兼ねて——（『大倉山論集』第六五輯、平成三二年）七八頁に転載。
- (3) 北端信彦「『暖簾』その意と匠」（『芸術…大阪芸術大学紀要』一七、大阪芸術大学芸術研究所、平成六年）。
- (4) 東京市日本橋区役所編纂『日本橋区史 第二冊』、東京市日本橋区役所、大正五年、一四八頁。
- (5) 神奈川県立歴史博物館、光画コミュニケーション・プロダクツ編『明治錦絵×大正新版画』、令和二年、七二～七八頁。
- (6) 前掲注5『明治錦絵×大正新版画』七二～七八、一八八頁。

- (7) ColBase：国立博物館所蔵品統合検索システムによれば、東京国立博物館に「大日本史略図会」二二点（機関管理番号：P-3698）の所蔵が確認できるが、現物は未見である（令和二年二月二四日閲覧）。
- (8) 演劇博物館公開データベース「デジタル・アーカイブ・コレクション」(<https://www.waseda.jp/enpaku/db/> 令和二年二月一八日閲覧)。
- (9) <https://thewalters.org/> 令和二年二月一八日閲覧。なお裏面はデジタル公開されていない。
- (10) <https://www.loc.gov/> 令和二年二月一八日閲覧。なお裏面はデジタル公開されていない。
- (11) 数字の典拠は以下の通り。第一回：「内国勸業博覧会場中概況諸表上呈」（公文録・明治十一年・第二十三卷・明治十一年一月・内務省伺（二））／第二回：『^{十四年}明治第二回内国勸業博覧会事務報告書』、農商務省博覧会掛、明治一六年／第三回：『第三回内国勸業博覧会事務報告』、第三回内国勸業博覧会事務局、明治二四年／第四回：『第四回内国勸業博覧会事務報告』、第四回内国勸業博覧会事務局、明治二九年／第五回：『第五回内国勸業博覧会事務報告』、農商務省、明治三七年。
- (12) 内務卿大久保利通が明治九年二月十日に提出した「内国勸業博覧会開設伺」による（公文録・明治九年・第百十三卷・明治九年四月・内務省伺四）。
- (13) 『大倉山論集』第五六輯（公益財団法人大倉精神文化研究所、平成二二年）所収。
- (14) 前掲注5 『明治錦絵×大正新版画』、六〇～六一頁。
- (15) 『明治十年内国勸業博覧会出品目録 一』、内国勸業博覧会事務局、明治一〇年、東二区五類の二〇〇。
- (16) 『大倉山論集』六〇、大倉精神文化研究所、平成二六年、三三五～三九二頁。
- (17) 「出品審査官職制及審査条例」太政類典・第二編・明治四年～明治十年・第百七十卷・産業十九・展覧場（一）
- (18) 『明治十年内国勸業博覧会審査評語 一』、内国勸業博覧会事務局、明治一〇年、一一九頁。
- (19) 上練馬村の相原房次が第一回内国勸業博覧会で授与された褒状が、練馬区立石神井公園ふるさと文化館の所蔵品アーカイブにて画像公開されている（<https://www.neribun.or.jp/archive/detail.cgi?Id=10009> 令和二年二月二四日閲覧）。

- (20) 『第二回内国勸業博覧会出品目録 初篇第二区』、内国勸業博覧会事務局、明治十四年、二〇七頁。
- (21) 前掲注5 『明治錦絵×大正新版画』六七、一八七頁。画帖五（目録番号1—1—5（12））。
- (22) 『Sômoku kachô zue』(Accession Number : 11.3682145) <https://collections.mfa.org/collections> 令和二年十二月一日閲覧。
- (23) 『艸木華鳥図会』（高橋浮世絵コレクション）、請求記号：200X@6-C1 <https://collections.lib.keio.ac.jp/ja/> 令和二年二月一日閲覧。
- (24) 前掲注5 『明治錦絵×大正新版画』、二五—三四頁。
- (25) 明治十四年一月六日制定の「第二回内国勸業博覧会審査条例」第一条（審査条例）太政類典・第五編・明治十四年・第二十一巻・産業・展覧場。
- (26) 『第二回（明治十四年）内国勸業博覧会審査評語 上』、内国勸業博覧会事務局、明治十五年、二九三頁。
- (27) 「賞牌製造ノ件」（国立国公文書館蔵『公文録・明治十四年・第二百三十三巻・内国勸業博覧会事務局』）。なお名譽は石凝媛命が作成した八咫鏡を、玉祖命が作成した八尺瓊勾玉を献上する図、進歩は神武天皇が椎根津彦に命じて平瓮・敵瓮を作らせている図、妙技は、巨勢金岡が紫宸殿に賢聖障子を描く図、協賛は秦酒公が雄略天皇の前で琴を弾いている図が刻されている。
- (28) 「内務省布達甲明治十一年第九号（四月二日）」（梶原猪之松編『官令全書 内務省之部 自明治七年至十四年』、梶原猪之松、三二—三ウ）。
- (29) 『第四回内国勸業博覧会出品部類目録 第一部工業 上』、第四回内国勸業博覧会事務局、明治十八年、二二—三三頁。
- (30) 「光琳画式」は文化一五年（一一八）に出版されており、大倉孫兵衛が明治二二年に版木を購入して再版した（参照：稲岡勝「明治の出版と求板本」、『書物・出版と社会変容』、『書物・出版と社会変容』研究会、令和二年）。
- (31) 『梅嶺菊百種』は天・地・人の三冊が刊行されているが、三冊目の「人」は明治二九年（一八九六）五月、すなわち第四回内

国勧業博覧会が終了した後に刊行されているため、本一覽の冊数には加えなかった。

- (32) 本一覽では冊数を一冊としているが、国立国会図書館が所蔵する『寛政絵手本』に「乙之部」とあることから、「甲之部」が存在すると思われる。今後、どこかで所蔵が明らかになることを期待したい。

- (33) 大倉書店が明治二七年六月二五日に『月権画譜』の版木を購入したことが奥付に記されている。

- (34) 角田拓朗「なぜ、これほどに日本の木版画／錦絵は世界から愛されるのか」（前掲注2『明治錦絵×大正新版画』、八頁）。

- (35) ⑦『晝齋画談』の出版人の岩本俊は、奥付に記載されている住所から「書画商 岩本忠蔵」と推定される（国文学研究資料館データベース http://basel.nijiac.jp/info/lib/meta_pub/detail、令和二年一月一八日閲覧）。おそらく岩本は刊行を企画し、大倉書店に協力を求めたのであろう。大倉書店はその後版權を得たらしく、明治二六年前後の出版販売目録にも書店刊行物の一冊として揭示されている。

⑨『美術応用解剖学』の奥付には、発客書舗として長尾景弼の博聞本社と大倉書房が併記されている。博聞社は明治前期の巨大出版社であったが、本書が刊行された明治二五年夏に巨額の負債を抱えて経営不振に陥り、長尾も二八年二月六日に死去した（稲岡勝「長尾景弼・股野兄弟と博聞社」、『都留文科大学研究紀要』六三、都留文科大學、平成一八年）。おそらく大倉書店も本書の刊行に関与しており、その関係で版權を得たのであろう。

- (36) ⑭『寛政絵手本』乙之部の奥付には、発売人として東陽堂・東陽堂支店とともに、大倉書店の名が記載されている。

- (37) 『第四回内国勧業博覧会事務報告』、第四回内国勧業博覧会事務局、明治二八年、七二頁。

- (38) 前掲注37『第四回内国勧業博覧会事務報告』、二九五頁。